

爽やかな一年を願い

オリジナルポスター寄贈

迫町下舟丁出身の書家・デザイナーの日野薫かほるさんが1月18日、市役所迫庁舎を訪れ、今年の干支を題材にデザインしたポスターを市へ寄贈しました。

ポスターの文字は漢字の「寅」を金で描き、その上にひらがなの「とら」を黒で重ねたデザイン。背景は青を基調としており、周りを縁取る白いラインが透明感を演出しています。日野さんは「トラのどう猛なイメージが全体的に晴れやかになるよう意識しました。今、世の中の空気がよどんでいるように感じるので、青を使い、見た人が爽やかな気持ちになるようなデザインにしています」と作品へ込めた思いを語りました。



寄贈したポスターの紹介をする日野さん(右)。ポスターは市役所迫庁舎の入口に掲示しています。

子どもが考える未来

市の未来新聞コンクール

「第14回子どもたちが考える登米市の未来新聞コンクール」の審査会は1月6日に開かれ、市内の小学校から応募があった63作品の中から8作品が入賞しました。

本年度は「未来へつながるまち～もっと登米市を好きになる～」をテーマに作品を募集。地域の良い部分をどう発展させるかやどのように課題を解決するかなど、子どもたちが市の未来の姿を想像しながら自由な発想で壁新聞にまとめています。食の名産品を紹介する入賞作品を鑑賞した佐藤きよみさん(43)、流音さん(9)＝南方町南大畑＝は「絵も写真もおもしろそうで、魅力にあふれる未来が楽しみです」と話しました。



応募された全作品は2月4日から20日までイオンタウン佐沼に、入賞した8作品は21から25日まで市役所迫庁舎に展示します。

市繁栄に向けて協力

各企業団体と協定を締結



写真は左上:1月13日、中上:1月14日(宮城労働局)、右上:1月14日(日本橋兜らいつ推進協議会)、左中:1月27日、左下:1月31日の協定締結の様子

市では1月、企業や団体と5つの協定を締結しました。内容は下記のとおりです。

締結日	企業・団体名	主な内容
1/13	みやぎ登米農業協同組合	市森林管理協議会(責任者、登米市長)がみやぎ登米農協店舗の新築工事に、市内産森林認証材を供給し、持続可能な森林資源の活用に取り組むもの
1/14	厚生労働省宮城労働局	地域の雇用対策などに連携して取り組むことにより、地域の人材不足を克服し、持続可能な地域経済の実現、若者の定着・定住による地域活性化を図るもの
1/14	日本橋兜らいつ推進協議会	ワーケーションなどを通じ、サステナビリティ活動の推進に向けた連携や協力。相互の地域の持続的な発展を目指して取り組んでいくもの
1/27	日本郵便	従来の災害時の協力体制に加え、相互の資源を有効に活用した協働による活動を推進。地域の活性化と住民サービスの向上に取り組むもの
1/31	明治安田生命	健康寿命延伸の取り組みと身体活動・運動習慣の推進により、市民の健康増進や市民サービスの向上を図るもの

安全願い決意新たに

市消防団の出初式を挙行

「消防団出初式」(菅原英義ひでお団長)は1月9日、登米祝祭劇場で開かれ、関係者316人が参加しました。

出初式は、近年、火災や自然災害などにより地域防災力の中核となる消防団の必要性は増しており、出初式の挙行により市民の安全・安心を守る誓いを新たにします。菅原団長は「出初式を契機として平素から予防啓発活動や、実践的な訓練を積極的に行い、団員個々の知識、技術の向上に専心し、地域の防災リーダーとしての活躍を切望するものであります」と訓示。団員たちは、消防人としての高い誇りと市民の厚い信頼や期待に応えるという決意を新たにしました。



力強い行進による雄姿の披露はできませんでしたが、新年の活動に向けて気持ちを引き締め、団の結束を高めました。

無症状者の不安解消

PCR検査センター開設

「木下グループPCR検査センター登米市指定PCR検査所開所式」が1月18日、市視聴覚センターで開かれました。

同検査所は、市民などの不安の解消のために、市が視聴覚センター内に検査場所を提供し、木下グループが運営します。検査対象者は検査を希望する無症状の人で、濃厚接触者や症状のある人は受検できません。検査は事前予約制で県内に住民票を有している人は無料です。検査方法は、検査キットを使用するセルフ形式。検査時間は5分程度で、後日、検査結果通知がメールで届きます。



建設業などを展開する木下グループのPCR検査センターは、本市が県内で5カ所目の開所。3月末まで開設されます。